

ジベレリン塗布剤 ジベレリンペースト	取扱メーカー： 住友化学 原体メーカー： 住友化学
成分： ジベレリン〔ジベレリン剤〕……………2.7%	性状： 淡黄色ペースト 毒性： 普通物 消防法： ——

【品目特性】……………

●直接塗布用に製剤した剤で、日本なしの熟期促進や果実肥大等に使用する。

●有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

●植物ホルモン剤であり、微量で植物に影響を与えるので、適用作物、適用時期、使用量、使用方法などを誤らないように注意する。

【薬効・薬害等の注意】……………

●日本なし

〈熟期促進，果実肥大促進〉

○果梗部に余分の薬剤を塗布すると、これが高温などによって下部にたれ、果面を汚したり薬害の原因となるので、所定量以上に多く付けすぎないように注意する。

○塗布する際、薬剤が果面に付着すると薬害の原因となるので果面に付着しないように注意して塗布する。

○二十世紀においてゆず肌の発生が多い樹には使用しない。

○処理によって熟期が早まるので、促進された熟期に応じた収穫の適期に収穫するようにする。特に促進された期間よりも早く収穫することのないように注意する。

〈新梢伸長促進〉

○全花除去した新梢基部に塗布する。

●日本なし（苗木）、もも（苗木）、温州みかん（苗木）、すもも（苗木）

○塗布する際、薬剤が葉や芽に付着すると薬害（やけ症状）の原因となるので、葉や芽に付着しないように注意して塗布する。

○品種によって効果に差がある場合があるので、初めての品種に本剤を使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

●ひのき及びひばの採種樹

○対象の枝の繊維に沿って辺材に達するまで切り込みを入れ、樹皮を持ち上げて形成層と木質部の間に所定量の薬剤を注入した後、樹皮でふたをして薬剤が流出しないようビニールテープ等で固定する。使用に当っては林業関係技術者の指導を受ける。

●ぶんたん

○果梗部に余分の薬剤を塗布すると、これが高温などによって下部にたれ果面を汚したり薬害の原因となるので、所定量以上に多く付けすぎないように注意する。

○塗布する際、薬剤が果面に付着すると薬害の原因となるので、果面に付着しないように注意し、結果枝を含めた果梗部周辺に対して塗布する。

●栽培管理、肥培管理などが不十分な園や異常天候時（異常高温、異常低温など）の使用は十分な効果が得られないことがあるので、そのような場合には使用しない。

●本剤は植物ホルモン剤であり、微量で植物に影響を与えるので適用作物、使用時期、使用量、使用方法などを誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は病害虫防除所など関係機関の指導を受けることが望ましい。

【適用と使用方法】

作物名	使用目的	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ジベレリンを含む 農業の使用回数
日 本 な し	熟期促進 果実肥大促進	満開30～ 40日後	20～30 mg / 1 果	1 回	果梗部塗布	2回以内 (果梗部塗布は1回 以内, 新梢基部塗 布は1回以内)
	新梢伸長促進	満開予定日 10日前～ 満開40日後	100 mg / 1 枝		新梢基部 塗布	
ぶ ん た ん	果実肥大促進	満開50～ 90日後	5～10mg / 1 果		果梗部及び 結果枝に塗布	1 回
パ パ イ ヤ		開花期	25mg / 1 花	1花当り 1回	花梗部塗布	1花当り1回
ひのき(採種樹) ひば(採種樹)	花芽分化促進	6月～8月頃 の花芽分化期	100mg / 1 枝	1回	枝を剥皮し 注入	1回
日本なし(苗木)	新梢伸長促進	萌芽期～ 新梢伸長期		3回以内	頂芽基部塗布 又は 新梢基部塗布	3回以内
もも (苗木) すもも(苗木)				2回以内		2回以内
温州みかん(苗木)		発芽期～ 展葉期		1回	頂芽基部塗布	1回